

平成27年8月9日（日）開催
谷津CC 1階多目的室

公共施設再生について、みんなで話し合おう！～公共施設再生計画説明会～

観点1：保有総量の圧縮（施設再編・再配置）について

- 施設の再生計画の基本は施設数の量ではなく、質の向上への転換が重要。そのための対応として、床面積を保有する学校（小・中）を優先して、統合・機能の継続を画る。
（理由）
 1. 地域利用施設は、各地に所在する学校が最適
 2. 防犯につながる（市民の出入りにより）
 3. 災害時の避難場所として役割も果たす
- 施設再編により、現在使用されている公民館等は、縮小されると思われるが、当面利用者は何年間か、増大するのでは？その手当ては？
- 基本教育で小中一貫校 同敷地内への統合
- 施設の共有使用 他の行政と共用施設
- 国の施設も共有
- 既存事業の見直し
- 総量圧縮は仕方ない
- 公民館→小、中学校の一部を使用することの疑問あり
- 地域コミュニティは大切
学校中心の地域づくりを
- 高齢者への対応

観点2：老朽化対策の具体案について

- リノベーションの再検討
更新事業費を抑える
- 維持保全の徹底
- 老朽化 仕方ないが新設、改築の場合の建築構造の長期間使用に意を盡くす。
- 建物等は100年以上可能な建物として整備
- 地域住民と共に建物の管理を行う

観点3：財源確保策について

- 他の公共施設（青年の家等）の売却→計画では、改修、建替が前提となっているが、一時経費の増大を解消するため、民間施設の利用を優先する。（→予算が平準化可能）
- 市議員数の削減
- 議員報酬の削減
- 職員数の適正な定員配置
- 生活保護費用・支出の管理
- 福祉・医療費の削減
健康寿命の伸長を図る
生きがい、活気ある街作り
- 財源確保策は施設の複合化と効率化を図るための民営化
- 財源確保として近隣との役割分担として、どのようなものがあるのか？